

はじめに

『小学校5年女子児童の4人に1人は、体育の授業以外、ほとんど運動をしない…。』昨年12月、文部科学省が公表した小中学生対象の「全国体力調査」で、このような結果が出ました。運動を頻繁にする子と、ほとんどしない子の二分化が小学校段階から顕著です。

ちなみに小学生の1日の歩数は、1979年で平均27,000歩だったのが、2007年は13,000歩に半減…。体を動かさない子どもの実態が浮かび上がってきます。

文部科学省は「体を動かす習慣を小学校入学前から始めるべきだ」と判断し、幼稚園や保育所段階でどれくらいの頻度で行うべきかを示すガイドライン（「幼児期運動指針」）を作り、この夏にも示す予定とのことです。各種目の数値向上を直接の目的とせず、遊びも含めて自然に体を動かす習慣をつけることを狙うもののようです。

子どもたちの体力をめぐる問題は、近年大きな課題になっており、それを受けて柏市では、今年度から市内のすべての幼稚園が、幼児の体力・運動能力の向上を目指す共同研究に取り組んでいます。運動に親しみ、体を動かす習慣を少しでも早い時期からという願いをもとにスタートしました。1学期は各園の園児の運動能力の現状を把握しました。その結果を各園が日々の保育にどう生かすかという工夫をし、具体的な取り組みが検討され実践されています。まだ実践してから短期間であるため、目に見える成果を発表できる段階ではありません。しかし、この研究を通して園児一人一人の体力や運動能力が高まり、ひいては柏市全体の幼児の健やかな成長につながるものと期待しています。

柏市教育委員会は幼児教育の重要性について早くから認識し、永年にわたり市立かしわ幼稚園との共同研究に取り組んでまいりました。しかし、市立かしわ幼稚園は1年保育でしかも1クラスしかない状況から、3年保育が主流の今日、研究成果を柏市全体に広める難しさが課題となっていました。この課題を受け、私立幼稚園協会のご協力も得て、市内すべての幼稚園が共同で研究に取り組むことになりました。昨年度から準備委員会を発足して今年度からの共同研究に備え、市内全幼稚園の協力のもと順調に研究を進めるとともに、研究成果をこのような冊子にまとめることができました。今後は、保育園との連携も視野に入れ、準備を進めていきたいと考えています。

最後になりましたが、ご指導いただいた聖徳大学大学院准教授 太田繁先生、ご協力いただいた市内すべての幼稚園の皆様、並びに関係者の皆様にお礼申し上げます。

柏市立教育研究所
所長 佐藤 進